



プロジェクト・ボックス

の安達好和さん(55)は技術

系の部長、小池淑夫さん(43)は課長という管理職ト

リオ。扱うのは積水時代の

02年から開発してきたマン

ション用のリフォーム建材

だ。

古いマンションの改善に

は、建て替えなり大改修な

りの方法があるが、構造部

分(スケルトン)を触るに

は、住民合意や費用が大

変。そこで、個人ができる

住戸(インフィル)のリフ

ォームで、どれだけ居住性

をよくできるかを考えた。

目指したのは、家を工業

製品化した住宅メーカーお

得意の、均一な品質だ。

マンションは古くなると

コンクリートの壁や床にね

じれやたわみが出る。とこ

ろが通常のリフォームで

は、そんな壁や床に職人が

直接、下地をつくる。腕が

悪いと内装やフローリング

に凹凸が出やすいのだ。

「M10、いったん住戸

をコンクリートだけの状態

にし、そこに工場製の建材

で下地を組み立てる方法を

住宅部門が不振に陥った

考えたんです」

安達さんの発想は、スケ

ルトンという外箱のボロッ

を、インフィルという中箱

の質がフォローするもの。

インフィルの外側は断熱

材で包み、建物の断熱改修

をしなくても住戸の冷暖房

効率を高くした。これなら

角部屋や最上階など、環境

に応じた断熱ができる。

下地の施工も、木材チツ

プで成形した建材を、格子

状に組み合わせるだけ。職

人の腕に左右されず、人手

も少なく済む。材料費が

かかるので、60平方メートル

の工事で900万円ほど。従来

のリフォームと比べて若干

安い程度だが、品質で十分

勝負できると踏んだ。

「会社は3年で事業化で

きればいいと言っていた」

(森崎さん)ので、古いマ

ンションで実験も重ねた。

だが、風向き変われば、そ

んな話はどこへやら。

目指すのは大手リフォーム

会社にもインフィルを供

給するメーカーへの成長

だ。その晩には、リストラ

で散った仲間を呼び集める

ことだってできるはず。

安達さんはほつりと言っ

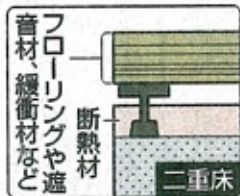
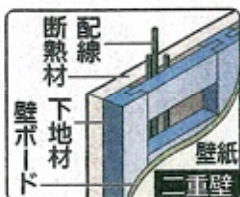
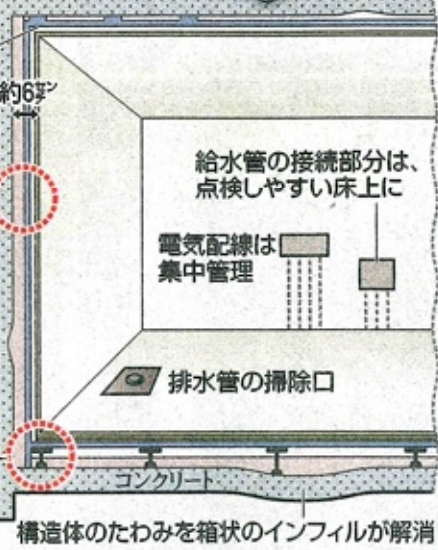
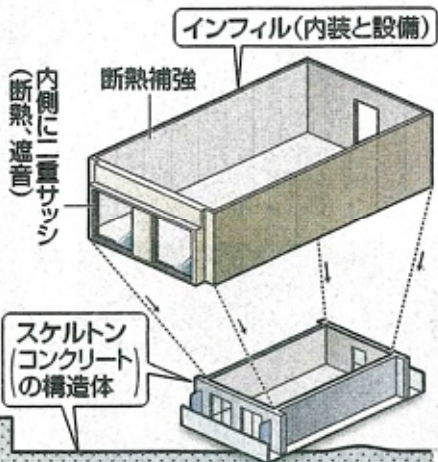
た。「会社は文化なんです。

リストラの管理職トリオ、リフォーム市場でリベンジ

「NEXT」の マンション用インフィル



座っている3人は元積水化学社員。左から、小池、森崎、安達さん=林正樹撮影



The Asahi Shimbun

「感想は、フアックス03・540・7354、メール wasgya@asahi.com

共に開発に没頭し、共に商品化を夢見た。そんな結束を誇った住宅メーカーのリフォーム開発部門を襲ったのは、部門廃止のリストラ。そこで部長と課長は立ち上がった。自ら開発した特許を会社から買い取り、ベンチャー企業でリフォーム市場へリベンジだ。何かベタな番組みたいな前フリだけど、希望の星めがけて歩むオジサンのは、ちよっぴり熱く、ちよっぴりまぶしい。(神田剛)

賤別代わりの特許で勝負

「M10、いったん住戸をコンクリートだけの状態にし、そこに工場製の建材で下地を組み立てる方法を

住宅部門が不振に陥った考えたんです」

安達さんの発想は、スケルトンという外箱のボックスを、インフィルという中箱の質がフォローするもの。インフィルの外側は断熱材で包み、建物の断熱改修をしなくても住戸の冷暖房効率を高くした。これなら角部屋や最上階など、環境に応じた断熱ができる。下地の施工も、木材チップで成形した建材を、格子状に組み合わせるだけ。職人の腕に左右されず、人手も少なく済む。材料費がかかるので、60平方メートルの工事で900万円ほど。従来

のリフォームと比べて若干安い程度だが、品質で十分勝負できると踏んだ。「会社は3年で事業化できればいいと言っていた」(森崎さん)ので、古いマンションで実験も重ねた。だが、風向き変われば、そんな話はどこへやら。

目指すのは大手リフォーム会社にもインフィルを供給するメーカーへの成長だ。その晩には、リストラで散った仲間を呼び集めることだってできるはず。

安達さんはほつりと言った。「会社は文化なんです。50を過ぎて違う文化で生きろって言われるのは……っらいことなんですよ」

が26%の最も多い。コスト「低」つこのためか。全国信用 人に1